

□安全アカデミーによる防災人づくり

春日井市長 鵜飼 一 郎

1 はじめに

みなさんは「ボニター」という言葉を聞いたことがおありでしょうか。ボニターとは、地域の安全について「自ら考え行動するボランティア」と「関係機関や団体に提言するモニター」から考えついた名称であり、平成10年、春日井市において誕生した安全なまちづくりで活動するボランティアの方たちを総称する名称です。

そして、このボニターを生み出したのは、「春日井市安全なまちづくり協議会」の主要事業の一つである市民大学「春日井安全アカデミー」であります。

ここで学んだ多くの市民がボニターとして地域の安全のために活躍されていますので、その一端を申し述べさせていただきますと思います。

2 春日井市安全なまちづくり協議会

(1) 背景

書聖小野道風の誕生伝説地である春日井市は、名古屋市の北東に隣接する住宅都市です。当市は、昭和18年に市制を施行し、

当初は第二次世界大戦のさなかであったこともあり、軍需産業都市としての出発でした。昭和30年代後半から土地区画整理事業の推進や高蔵寺ニュータウンの建設が始まるなど、次第に住宅都市としての性格が強くなり、平成12年には人口が29万人を超え、平成13年4月1日からは特例市に移行しました。

人口急増による市の発展は、反面住民相互のつながりが希薄となるなど、地域社会の持っていた安全機能が次第に失われていくことにもなり、都市化・核家族化という社会情勢も一因となって犯罪が増加・多様化する傾向が顕著となってきました。また、私が市長を拝命した直後の平成3年9月19日には、台風18号による影響で、市内を流れる河川の堤防が一部決壊し、多くの市民が被災しました。

犯罪や災害の脅威から守られた安全で安心して暮らせるまちは、市民の日常生活にとって欠くことのできないものです。こうした問題について、私は就任以来、市民の日常生活の基盤形成を支援する自治体として、最も重要な課題の一つに位置づけてまいり

ましたが、こうした課題は自治体だけで解決できる問題ではありません。自治体が市民や関係機関と協力し合って共に歩んでいくことが大切であり、市民一人ひとりが主役にならなければ、課題を克服することは望むべくもありません。

こうしたことから、本市においては、市民が不安を抱く問題に対し、「春日井市の安全」をテーマに、犯罪や災害に強い都市基盤の整備と、地域のふれあいと連帯の中での安全ネットワークづくりを目指し、市民・団体・行政が一体となって安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、全国に先駆けて平成5年6月30日に市内100以上の各種団体を会員として「春日井市安全なまちづくり協議会」を設立したのです。

(2) 概要

安全なまちづくり協議会では、安全で安心して暮らせるまちづくりのため、五つの柱を定め、それぞれの目的に沿った事業を展開するための部会を設けて活動しています。その概要について簡単にご紹介しますと、①安全についての調査研究を行う「安全都市研究部会」、②地域における安全活動を実施する「安全活動推進部会」、③安全な暮らしに必要な知識・情報の提供と啓発活動を展開する「啓発活動推進部会」、④青少年問題に取り組む関係団体と連携し啓発活動を推進する「青少年問題調整部会」、⑤暴力排除意識の高揚を推進する「暴力追放推進部会」の5部会であり、それぞれの部会に市の各部・課から横断的に参加した職員で構成する部会事務局(計60名)を設けて、各団体や地域の方々と一体になってそれぞれの事業を展開しています。

また、協議会では、市内各小学校区ごとに5名の市民の方を「協議会推進員」として委嘱し、各小学校区における危険箇所や安全に関する意見を協議会へ通報する情報提供活動や協議会事業への参加をお願いし、地域と密着した活動へつなげています。

このように、協議会では、地域の安全・安心のためにさまざまな事業を行っていますが、その中でも、地域の安全リーダーであるボランティア育成のために行っている「春日井安全アカデミー」は、大きな役割を担っています。

3 春日井安全アカデミー

まちをつくるのは人であり、安全で安心して暮らせるまちをつくる人を育てるのが春日井安全アカデミーの役割です。春日井安全アカデミーは、安全啓発の一環として啓発活動推進部会が中心になって開校しています。これは、安全をテーマとした市民大学で、市民・団体の方に、市民生活にかかわる安全について学んでいただく場であるとともに、冒頭に申し上げました、地域の安全について活動・提言を行うボニターの育成を目的とするものであります。

春日井安全アカデミーは、平成7年から毎年開校され、大学教授をはじめ弁護士、医師など安全に関する各分野の第一線で活躍されている方々を講師として招き、地域の安全のために必要な知識・技能を専門の立場から講義していただいています。

アカデミーの内容は年々充実したものになり、現在、大きく分けて基礎教養課程と専門課程の二つに分かれ、毎年8月から12月



アカデミー基礎防災コース

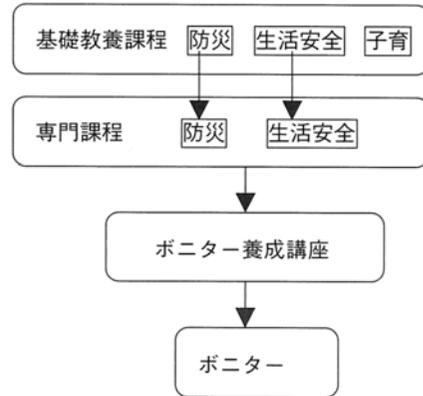
にかけて合計 35 講座を開講しています。

基礎教養課程では、市民・地域レベルで災害を考える「防災コース」、家庭・地域における防犯について考える「生活安全コース」、青少年が健全に育つ環境を考える「子育てコース」の 3 コース各 7 講座を開講しており、毎年、春日井市民を中心に各コース 50 名程度が受講しています。次に、専門課程では、基礎教養課程を修了された方を対象に、「防災コース」、「生活安全コース」の 2 コース各 7 講座を開講して、より深い内容の講義を行っています。これまでにアカデミーを受講された方は延べ 1041 名にのぼり、いずれの講座においても、単に知識を習得するだけのものではなく、地域レベルで市民ボランティアとして何ができるかを学ぶ実践的な内容となっており、受講生が熱心に学ぶ姿が見受けられます。

また、専門課程を修了した方の中からボランティアとして活動していただく方を対象に「ボランティア養成講座」を開講しており、救急法や災害図上訓練(DJ.G)など、地域の安全リーダーとして活動するために必要な講義を行っています。

安全・安心まちづくりボニター

育成チャート



4 安全・安心まちづくりボニター

このように、協議会では春日井安全アカデミーとボランティア養成講座を修了された市民の方々を対象に平成 10 年度から「安全・安心まちづくりボニター」として委嘱しています。平成 14 年 4 月現在で、106 人の方がボニターとして委嘱を受け、協議会の「安全・安心まちづくりボニター連絡会」に所属し、市内の居住区ごとに東部・中部・西部の各ブロックに分かれ、地域ごとの特性に対応しつつ、市内全域に広がるネットワークを形成して活躍しています。

ボニターの方々は、協議会の支援を受け、市などと一定の関係を持っていますが、毎月 1 回の定期的な各ブロックでの話し合いや、各ブロック、あるいは全体での研修・啓発を行いながら、自らの意志により独自に定めた活動を進めています。

これまでのボニターの主な活動としては、



拠点訓練 DIG 風景



市民サミット

○総合防災訓練への参画

地震発生直後に地域の住民が協力し、身近な機材を使って倒壊家屋から負傷者を救出し救護するデモンストレーションを企画・実施

○災害図上訓練(D. I. G)の実施

市が主催する防災拠点訓練へ参加した地域住民に対し、講師として災害図上訓練を実施

があります。このほか、協議会の事業や市の防災事業への参画、地域の区・町内会などが開催する防災訓練の補助を行うとともに、簡易な防犯診断のなかで被害防止をアドバイスする「安・安診断」の実施など、防災・防犯の両面にわたりさまざまな活動を展開して、着実に実績を上げています。

ボニターの活動は、安全に関するボランティアの先駆け的存在であるとともに、犯罪や自然災害全般にわたる安全に係わる総合的ボランティアとして高く評価されています。

また、平成14年11月30日には、ボニター発足5周年をきっかけに全国23市町から、市民・自治体・警察の約400の方が春日井市に集まり、自らの体験を交換し、相互の連携を強め「市民が主役の安全・安心ま

ちづくり」について話し合う「全国安全都市市民サミット」を開催することができました。

5 春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム実行委員会

春日井安全アカデミーは、ボニターとともに新しい力も生み出しました。それは、アカデミーを修了された女性の方々と組織する「春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム実行委員会」です。この女性フォーラム実行委員会は、当時の建設省などが全国的に実施した同名の事業に参加する形で、平成10年度に結成され、全国での事業終了後も継続的に活動しており、現在35人の女性が参加されています。

女性フォーラム実行委員会では、女性の視点や生活者の視点による安全なまちづくりに向けた市民主導の調査・研究活動に取り組んでいます。これまでに「みちがつなぐ地域安全」をキーワードに、「みち」をテーマとして地域住民の方々と一緒に危険箇所点検や「安全マップづくり」を進めていただきました。



安全・安心マップ

また、平成 12、13 年度の 2 か年をかけて春日井市内の全小学校区を対象に、小学校区ごとに地域住民、PTA、児童等の参加を得て、防災・防犯・交通の 3 項目について「安全マップ」の作成に取り組みました。

マップづくりを通じて安全意識の高揚や啓発を図りながら、地域の方々に自分たちの足下を見直してもらうなど、地域住民自らが地域の問題点を考えるきっかけを作っていました。

こうした活動を受け、市では、女性フォーラム実行委員会が作り上げたマップを基に平成 14 年 11 月に「安全・安心マップ」として完成させ、児童や地域の安全にかかわる方々に活用していただいているところです。

また、女性フォーラム実行委員会には、「安全マップ」を利用し、平成 14 年度から市内 11 の小学校において総合学習の時間に



総合学習風景

安全啓発授業を行っていただきました。

6 おわりに

地域の安全は、市民自身が「自分たちのまちは、自分たちで守る」という視点に立ち、自主的な活動を推進していくことが重要であります。自治体は、そうした活動をあらゆる面で支援していく必要があると思います。そのためには、地域の安全リーダーとなる人材の育成に務めることが大切であり、今後も春日井市では協議会が中心となって地域の安全を担う人材の育成に努めるとともに、ポニターや女性フォーラム実行委員会などの自主的な活動を支援しつつ、安全で安心して暮らせるまち春日井を目指して着実な取り組みを行い、春日井の地から全国に「安全・安心」を発信していきたいと考えております。